

平成30年度 公立小松大学入学者選抜試験

推薦入試（一般推薦）試験問題

# 課題作文

【国際文化交流学部】

国際文化交流学科

(注意事項)

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 2 問題紙は本文1ページです。答案用紙は1枚です。
- 3 答案用紙の所定欄に受験番号を記入しなさい。
- 4 答えはすべて答案用紙の指定のところに、縦書きで記入しなさい。
- 5 アルファベット文字や数字は、1マスに1字で記入しなさい。
- 6 試験終了後、問題紙と下書き用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、あなたが“島”から連想する事柄（自然、歴史、社会、言語、政治、経済など）について、一行目に題名を付け、800字以内で書きなさい。

子供の頃から“島”というものに興味があった。それも無人島かそれに近いような小島。キャンプや探検をしてみたいというのではなく、そこで住んでみたらどのような生活になるかという想像に発する好奇心である。小笠原諸島の西ノ島で噴火が起こり、東京ドームの50倍以上の島ができたというニュースには久しぶりに胸が躍った。最近海鳥も生息するようになったというから、そのうち人間も住めるようになるのではないだろうか？火星に移住するよりよほど現実的である。

現に日本人の祖先の中にはそのような移住を選択した人々もいたはずである。日本列島には大小数千の島があるが、人がそこで生活を営む有人島は300程度であるらしい。無論、最大の島は本州である。島の大きさや自然環境などそれぞれ異なり、それらすべてに縄文時代からずっと人が住んでいたとは考えられない。ここで言うのは、最初に無人島に渡り、一生をそこで過ごした人々のことである。鬼界ヶ島に流刑となった俊寛や船が難破して無人島に漂着したロビンソン・クルーソーとは違う。いずれも実際には無人島ではなかったからである。

俊寛のような貴人が流される島は、すでに人が住み、その支えによって最低限の生活条件が保証された所であったろう。西ノ島のような無人島に捨て置かれたなら、俊寛は悲嘆に暮れる間もなく餓死したはずである。ロビンソン・クルーソーの場合は、命を救った原住民のフライデーと主従関係を結び、最後は故国イギリスへの帰還を果たすのだから、むしろ植民地主義の匂いがする。私が思うのは、そのような歴史の主役ではなく、名もなき人々のことである。彼らに思いをはせ、現代日本を生きる我々の生活とそれを取り巻く環境を改めて考えてみることも意義あることではないだろうか。